

# 1. 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2970101842		
法人名	有限会社ハヤシ		
事業所名	グループホーム エル・ハヤシ学園前センター		
所在地	奈良県奈良市学園朝日町12-10		
自己評価作成日	平成24年2月20日	評価結果市町村受理日	

**基本情報リンク先**

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人Nネット		
所在地	奈良県奈良市登大路町36番地 大和ビル3F		
訪問調査日	平成24年3月7日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

当事業所では入居者の尊厳を大切に、音楽でもって心を豊かにすることに重点を置いて日々のケアに取り組んでいます。ミュージックセラピストのアラン・ウッデンバーグ氏の講義を受けた職員が音楽療法をおこない、入居者の方々が穏やかにその人らしく生活できるよう支援しています。季節に応じて様々な行事をおこなっており、夏には地域住民や子供会、入居者の家族を招待し、夏祭りを開催し地域住民との交流もおこなっております。また、当事業所の入居者だけでなく、ハヤシグループ全体の利用者が集う音楽祭に参加し、一年に一度の晴れの舞台で健康で元気に楽しく歌うことを目標にして、入居者の皆さんは日々歌の練習をし、生きいきと楽しく生活しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、住宅地の中にあり3階建ての社員寮を改装した3ユニットのグループホームで、道路に面して駐車場がある。2階、3階に移動する支援として階段昇降機が設置されている。長い廊下に面して各利用者の部屋が並び、窓が大きくて明るい。共有空間は広くゆったりして、ホーム独自の理念の通り音楽に親しむ園歌の歌詞が壁に大きく貼られ、利用者の楽しみになっていて「歌いましょうか」と利用者に声を掛けられる。法人全体の利用者が集う音楽祭には用意された車に分乗して天理市まで移動参加している。利用者、家族と職員の信頼関係も良く、対応には安心されている。法人内の福祉コース研修制度があり、習熟度に応じた技術向上が認定され自己研鑽の励みになる。職員は利用者個々をよく理解し穏やかな対応で介助されている。法人本部の支援は大きな励みとなっている。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	音楽でもって心を豊かになる、人を助けて我が身助かる、一人ひとりの尊厳を大切に、ということを実践とし地域との交流や入居者が主体的に自己実現できるような援助をするよう努めている。	音楽療法を取り入れ利用者が心穏やかに交流、支援し合うように快適な生活の場を提供している。運営方針は玄関やリビングにも掲示、「和」をもってを指標とし、会議等で確認し努力している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会から催し物の招待を受けると入居者に参加を呼びかけ積極的に交流している。また当施設主宰の行事に地域住民に参加してもらえるよう声掛けをしている。	自治会に加入し、自治会の催し物に招待を受け積極的に交流している。子供会活動とか清掃活動にも参加している。毎年事業所が催す夏祭りには近隣住民を招待して、利用者との交流が楽しみになっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の催し物、清掃ボランティアなどに入居者と共に参加して、地域の人々と話し合い、地域に貢献できるように取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の活動や地域との交流について話し合い、異なる立場から様々な意見を取り入れ、サービスの向上に活かしている。	自治会長が毎年改選されるので、選出役員や市担当者、地域包括支援センター職員、家族会などで2回開催した。災害避難訓練時に近隣住民の訓練の参加を含めて事業所からの説明を助言を受けた。次回は3月12日に実施する。	地域との交流をより深めるためにも、身近なテーマ(AED設置の活用、中学生学習体験など)で、2ヶ月に1回の定期開催を計画されることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みについて市の担当者に積極的に意見や助言をもらいサービスの質の向上に取り組んでいる。	生活保護受給の利用者を含めて市との連携を取り合って情報交換している。市主催の研修会に参加し情報を共有している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修や勉強会に積極的に参加し、職員全員が理解のうえ、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	法人内の福祉専門コース研修会では常に身体拘束行わない視点が強調され職員全体が理解している。玄関の施錠は交通量の多い道路事情からやむを得ない時間帯もある。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に積極的に参加し、職員全員が理解している。管理者は職員のストレスがないか常に気を配り、職員が常に相談できる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会に積極的に参加しており、入居者が将来その制度の利用を検討する場合には支援する体制がある。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人や家族と面談を重ね、聞き取った不安や疑問に誠実に答え、重要事項説明書に基づいた説明を行っている。解約時や改定等の際にも本人と家族が理解し、納得できるまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見や不満などないか尋ね、面会時以外にも連絡を密にして、気軽に話しかけができる雰囲気作りを努めている。実際に相談や苦情があれば、速やかに責任者に報告して対応し、運営に反映させている。	毎月の利用料請求時には振込ではなく面会時に面談をしながら領収書を手渡すことにしているため家族からの要望、満足度を対面聞き取りでき要望に応えている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各職員から意見や提案を聞き取る時間を設けている。意見の言いやすい職場作りを努め、意見や提案は検討後、運営に反映するようにしている。	毎月の職員会議では業務日報や業務連絡ノートに記載された案件や要望がテーマになる。必要に応じて利用者や家族に回答している。プランの更新について業務に反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や個々の職員の勤務状況を把握することに努め、各自の希望や考え方をアンケートなどによって調査し、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人ひとりのケアについて観察し、個々人の経験に応じた指導や研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学や意見交換を行っている。また他の施設にも興味を持ちサービスの質を少しでも向上できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時より面談を行い、直接本人の希望や不安を聞いたり感じ取ったりするようにしている。面談の結果は記録に残し、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より施設見学や自宅訪問を通して面談を重ね、家族の希望や不安を聞き取り、受け止めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている内容を受け止め、介護支援専門員や病院の相談員などと共に判断し、その時々により優先すべき支援には柔軟に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩と思い、一緒に家事や食事作りなどを行いながら、日常生活を通して、入居者の喜び、悩み、思い、願いに共感し、自然な関係を作るように努めている。		
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に家族と十分に話し合い、入居後も状態の説明や近況報告を随時行って、家族と信頼関係を築きながら、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人の別なく、常に面会が可能であり、馴染みの人の訪問があれば時間を問わず受け入れている。外出の希望があれば家族の協力を得ながら実現できるように努めている。	「この町に住んで良かったと思える街づくり」として家族との帰省外泊を勧め、逆に、帰宅出来ない利用者に対して、職員が行きたい所への外出を支援して、寂しさを癒してもらおう配慮をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者どうしの関係を把握し、座席位置を調整したり自然に関わり合える環境作りを努めている。性格や気が合う合わない等を考慮して職員がさりげなく間に入り孤立しないように常に見守り配慮している。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した場合でも、面会や情報収集を行い、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接希望を尋ねるだけでなく、日々の会話や表情から、本人の思いや希望を自然な形で感じ取り、把握している。困難な場合は日頃の様子から推し量り、家族と相談して、本人本位の支援が出来るよう検討している。	家族や友人が訪ねてきた時に利用者の言葉や表情から利用者の思いなどの要点を訊いて引き継ぎノートに書いている。体調が優れなくても訴えない利用者があるので情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者の経歴や経験を把握し、それを元にその人らしい生活が送れることを大切に支援に努めている。これまでのサービス利用などの書類も管理して把握できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の変化には細心の注意を払っており、日常の様子や気づきを記録し、職員間でも随時話し合っている。ケアカンファレンスも行い、状態に応じた支援を行えるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に状態の把握を行い、本人の意向や家族からの要望を反映し本人の意思を尊重した介護計画を作成している。	家族には介護計画に対する要望や意見を聞きアセスメント表をもとに、ケース会議で6ヵ月毎に見直しをしている。またモニタリングは1ヵ月ごとに実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や気づきを利用者ごとに個別に記録し、職員間で情報を共有しており、それをもとにして実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同じグループの特別養護老人ホームと連携して季節の行事をおこなっており、柔軟な支援や対応が可能である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会交流を図るため、地域のボランティアによる歌や楽器演奏などのイベントを行って支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、契約時に説明・承諾を得て適切な医療を受けられるよう支援している。緊急時にも施設の提携病院等で対応できるように説明しており、家族の希望に沿って支援している。	利用者の主治医への受診は家族が付き添いで行く。協力医療機関への受診は必要時に職員が付き添う。健康状態把握チェック表があり、専従の看護職員が2名配置されており、夜勤時の対応もする。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携を図り、日頃より相談・助言を得ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との提携を保ち入院先を確保し、医療相談員と情報交換や相談に努め、早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合等について、本人・家族に説明し、可能な限り本人・家族の希望に応じる方向で対応を行っている。かかりつけ医との話し合いを都度行い、連携体制をとり、職員・家族で対応を行っている。	法人として重度化の指針は設けているが、現在までは看取りの事例はない。看護職員が専従し、利用者の2時間毎のバイタルサイン等の記録表で体調管理をしている。重度化した利用者を家族の希望で特別養護老人ホーム利用のため退居している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が社内の研修制度で応急手当や初期対応の訓練を受けており、利用者の急変や事故発生に備えた実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間を想定した避難訓練を定期的実施しており、また、災害時の地域との協力体制についても日頃から理解し、常に行うことができる体制をとっている。	年に2回災害避難訓練を昼夜を想定して実施している。スプリンクラーや火災通報装置が設置されている。地域住民や運営推進会議参加者も共に避難訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護について社内の研修制度で職員は研修を受けており、日頃から言葉かけや対応については指導を行っている。また、記録の仕方等についても注意している。	法人の研修で人格の尊重やプライバシーの確保を大切にする言葉掛け等を教えられている。また会議で気づいた所を話し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を話しやすいように、日々の会話に耳を傾け理解できるように支援している。また、言葉で表現できない方については、表情や行為で理解できるよう、思いを推し量るような支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて起床・食事・入浴・就寝など行っている。施設でゆっくりしたい人や外出して買い物したい人など、本人の希望にそって支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段もそうであるが、外出時など利用者の希望に合わせた服装や髪形をしてもらえるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力や興味に応じて、食事の準備や配膳、片付けなど職員と共に楽しみながら一緒に行っている。	委託している調理業者から調理された料理が届けられ、事前に届けられる献立表により職員が温めて配膳している。利用者も食器並べを手伝い、後片付けの洗い物も分担している。食器の小皿の色取りが綺麗で好評である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量を個人別に記録し、十分な栄養摂取と水分の確保が行われているか確認するよう支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に声掛けをして口腔ケアを実施している。また、自力でできない利用者については、職員が介助しながら口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排尿・排便を促すことで、気持ちよく排泄でき、オムツの使用を減らしている。	一人ひとりの排泄パターンを排泄チェック表に記録し、排泄のリズムを把握している。和式のトイレもあり好んで使用する利用者も居る。トイレ入り口には手すりとスロープが付けられている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をつけ個々の利用者の便秘に注意を払っている。また水分摂取や運動への働きかけを行い便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に合わせ、可能な限り、入りたい時に入っていたりけるよう支援している。	週3回の入浴日を設定し、午後の時間帯にゆっくり入浴できるように支援している。シャンプーやスポンジに各利用者の名前が明記され、リラックスして入れるようにプライバシーに配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室を適温・適度な照明にし静かな環境を整えている。日中に適度な運動や体操を行うことで夜間の安眠・休息が得られるよう生活のリズムを整えるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の説明書をファイルし、職員はその薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて料理や洗濯の役割を担っていただいている。個々の趣味や楽しみごとが実行できるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って外出先を決めて支援している。普段は行けないような場所についても家族等の協力を得て出かけられるよう支援している。	気候の良い日には近所のスーパーへの買い物を楽しんだりする。暖かい日は庭で日向ぼっこをしている。車椅子を折り畳んで車に分乗し、花見や法人運営のデイサービスの催しに出かけ、温泉入浴を体験している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望や能力に応じて金銭の所持・管理を支援している。所持・管理の難しい方には事業所で管理し、本人の欲しいものを買うよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族や大切な人に電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって快適な状態であるように配慮し、季節の花や飾り物で季節感を感じ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	食堂には季節感のある飾りがあり、くつろげるソファもある。台所からは食器を洗う音も聞こえ生活感も感じられる。また身体の機能低下を考慮して、階段昇降機を設置している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の決まった場所で過ごすことのないよう、独りになれたり、気の合った者同士で過ごせるような居場所作りを心がけて支援している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室については、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みの壁飾りなどを配置し、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	各室は広く日本間と洋間とがあり、ベッドや仏壇、洋服掛け、椅子等が整理整頓されている。衣服、調度類を収めるスペースもある。入り口に各自の表札がある。窓から見える庭の梅、椿の赤い花が利用者を和ませている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかりにくくなった方や入居後日の浅い方にはドアにネームプレートや目印となるものをつけて安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫して支援している。		